



2階女子トイレ。洗面台はゆるやかにカーブし、穏やかな雰囲気的空間になっている。プースの仕切りは天井まで立ち上げ、プライバシーに配慮。

学校トイレ事例

01

新築

東京都板橋区

板橋区立板橋第十小学校

「施設の顔」ともなる学校トイレは
「児童のもう一つの居場所」

トイレは学校の
第一印象を決める

東京都板橋区では、学校施設の老朽化と少子化の進行という課題を解決するとともに、これからの社会に求められる学校を新たにづくっていくための計画として、2013年度に「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を策定しました。この計画に基づき、2018年度に板橋第十小学校の改築工事が実施されました。

坂本健区長は、「トイレは施設の顔」と表現しています。学校を訪れる地域の人や保護者は、教室は使わなくてもトイレには入る。学校トイレは、施設の第一印象を決めるものとして、特に力を入れて整備を進めています。2024年度ま



各教室の入り口には手指消毒用のアルコールを設置。

で区内全校のトイレを改修し、洋式化、乾式化する計画です。
トイレを
学校の目玉にしたい

板橋区が大切にしているのは、改修を進めることだけではありません。計画が進行する中で、完了した改修を振り返り、反省点を見出したり、完成後の施設の利用者の声に耳を傾け、少しでも利便性の高い施設づくりを心がけているのです。

板橋第十小学校の改築においても同様です。すでに改修を終えた学校の反省点を踏まえ、特にトイレはできるだけ高機能で衛生的であり、デザイン性も高めていくことを目指しました。

学校全体の設計を担当した楠山設計は、板橋第十小学校では特にトイレを学校の目玉にしたいと、学校トイレ設計の実績が多い設計事務所ゴンドラに協力を求めました。楠山設計は今回のトイレの設計に関して、学校トイレの役割として次の3点を挙げています。
・健康的な学校生活を支える。
・一人になれるプライベート空間と



2階男子トイレ。小便器の壁は紫とブルーでさわやかな印象に。



2階男子トイレのブース。3室のうち1室はスペースが広く取られている。



2階女子トイレのブース。壁掛大便器を選定し、掃除のしやすさに配慮。



写真左から、教育委員会事務局新しい学校づくり課学校計画・改修係係長 成井康孝さん／電気担当電気設備係担当監督員主事 内山孝志さん／建築担当教育施設第一係担当監督員主事 青木竜哉さん、同主任監督員係長 井戸喜武さん／機械担当機械設備係主任監督員係長 早藤伊佐緒さん、同担当監督員主事 岩瀬真也さん。

しての心理的役割。
 ・手洗い場など、偶然の出会いを生む交流点であること。
 この役割を考慮し、「清潔で使いやすいと心地よいこと」「しっかりととした個室感」「みんなが立ち寄りたくなること」を意識した設計が行われました。

同じデザインや色が一つもない

位置が入れ替わっているフロアがあったり、窓の配置が違ったりしています。
 中でも目を引くのは色使いです。学年ごとにアクセントカラーが決められ、それぞれ3色の配色パターンによって色彩計画が行われています。色は原色というよりは、大人っぽい落ち着いた色ばかりです。
 また、各トイレはどこも外に面した開閉式の窓が床から天井近くまで大きく取られています。積極的な自然採光により、トイレ内は明るくさわやかな空間となります。



2階手洗い場。色彩は同フロアのトイレと統一され、教室ともシームレスにつながっている。

「これまでの学校トイレでは、どこもデザインが統一されていました。当校の新しいトイレは同じものがなく、自分がどこにいるかわかりやすいし、楽しさがあります」（中川久亨校長）

実際にトイレを使っている4年生の児童たちに話を聞くと、「トイレが好き」「トイレが楽しい」「びびりができれいで安心して入れる」といった元気な声が多く聞かれました。

水場は子どもたちの「交流点」

もう一つの大きな特徴は、水場が多いことです。

板橋第十小学校のトイレでは、水場を子どもたちの「交流点」と捉え、トイレ内だけでなく、トイレの外のスペースにも男女共同で使う手洗い場や清掃のための流しを設置しています。

手を洗いながら、掃除をしながら、他のクラスの子とも交流ができます。

また、水場の近くには、気楽にくつろげる広いベンチを設置するなど、トイレやトイレ前の空間は、子どもたちの集まる楽しい「コミュニケーション空間」となっています。

保健室の水まわりも充実しています。校庭に面した出入口には温水の出るシャワーを設置。ケガを

した児童が室内に入る前に、傷口の汚れを落とすことができます。

保健室内にもシャワー室を設置しています。これはアトピー性皮膚炎のある児童が、夏場に汗で悪化させてしまうのを防いだり、トイレが間に合わなかった児童が体を洗うことなどを想定しています。

大便器や小便器は清掃性・衛生性に配慮した壁掛け式です。器具は、全般的にメンテナンスや掃除がしやすいよう、できるだけ溝がないシンプルなものを選択しています。

板橋第十小学校は、2人の用務主事が週に2回、それぞれのトイレを20分かけて清掃しています。新しいトイレのおかげで、効率的な清掃ができるようになったそうです。

バリアフリートイレは右勝手、左勝手ともに設置

バリアフリートイレも目を見張るほど充実しています。各フロアに配置され、しかも、オストメイト対応設備や介助のできる折り畳み



板橋第十小学校
中川久亨校長。

「トイレの数が増えてうれしい」「手を洗う場所が多くなって便利」と喜ぶ児童。



トイレが間に合わずに汚したときなどのため、保健室にはシャワー室も設けている。



校庭に面した保健室の入り口にシャワーを設置。汚れを落としてから室内に入れる。



清掃用具入れには掃除用流しを設置。モップ掛けや棚が充実し、整理整頓しやすい。



廊下に面した流し。流しの下は十分な空間があり、車いすでも使いやすい。



1階女子トイレ。主に2年生が使用するトイレは、元気や情熱をイメージする色合いとなっている。



(上) 地域の人たちも使えるバリアフリートイレ。オストメイト対応流しやフィッティングボードも設えられている。
(左) 昇降口近くには「赤ちゃんの駅」。ベビーベッドといすが置かれている。

「学校の改修には大変多くの人が関わります。教育委員会、建築担当、電気担当、機械担当、設計者、学校……。コロナ禍の工事で想定外のこともありましたが、各部署の担当者、業者の方々が100%の力を出して、チームワークで乗り切ることができました」
(板橋区教育施設第一係 主任監督員係長 井戸喜武さん)

「2018年度から始めて、半分の改修が終わりました。出来上がった学校の改修の知見を活かして、2024年度までに改修を完成させていきたいです」(同教育委員会事務局新しい学校づくり課学校計画・改修係係長 成井康孝さん)

関わる人が全力で臨み、 チームワークで乗り切った

式のシートやベビーチェアなどを完備しています。

板橋区では、学校トイレに限らず、トイレのユニバーサルデザイン化に力を注いでいます。例えば、区内にある公共施設では、左右どちらに麻痺がある方でも使えるように右勝手、左勝手の2室を並べて用意しています。

板橋第十小学校においても、同じパターンのバリアフリートイレに統一するのではなく、右勝手、左勝手を設えています。



地域用トイレには手洗いのしやすい深さのあるボウルを設置。ベビーシートも設置されている。



地域用トイレ。温水洗浄便座や幼児用補助便座、ベビーチェアを完備。



3階の手洗い場。左手の奥には男女のトイレ。トイレ内はもちろん、トイレの外にも手洗い場を設置。水場は子どもたちの「交流点」として捉えている。

ローコストは色彩計画で個性を出して解決する



一級建築士事務所
有限会社設計事務所
ゴンドラ
代表 小林純子さん
設計事務所ゴンドラは学校のみならず、全国の有名施設トイレを手がけるトイレ設計のスペシャリスト集団。小林さんは日本トイレ協会の会長でもある。

学校トイレは「友達と交流する」「内緒話をする」「ブースの中では一人になる」という、子どもたちの大切な場所です。そこで「学校にもう一つの居場所をつくる」をコンセプトにプランを進めました。限られた予算の中で、子どもが教室とは別の気持ちになるために何か必要かを考えていきました。

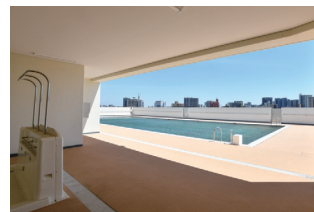
一つは、自然採光や自然換気のために窓を大きく取りました。自然換気はコロナ対策としても重要です。もう一つは、手洗い環境を充実させました。水場は大切なコミュニケーションの場です。また、色彩計画で特徴を出しました。板橋区長の意見として、「多様性の時代と言われる中で、『男は青、女は赤』という固定観念が何も変わっていない」とお話しいただきました。そこで、学年ごとに色を変える「学年色」を設定し、児童の成長に合わせて内装材の色を変えていきました。トイレ改修でお金がないときに、色の工夫次第で特徴を出せることを私たちも改めて学びました。



児童の憩いの場になっているトイレ前のベンチ。



体育館内のトイレ。災害時には避難所として使われるため、ゆったりとした空間のバリアフリー設計。



トイレや更衣室も設置された屋上プール。



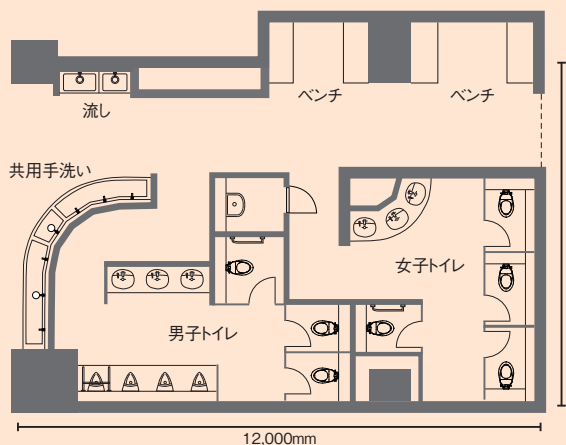
屋外には災害用トイレを設置。



職員用女子トイレ。商業施設のようなシックなデザインで、スタイリングコーナーも設置。

板橋区立板橋第十小学校 DATA

名称：板橋区立板橋第十小学校
所在地：東京都板橋区大谷口上町43-1
児童数：518名(2021年4月)
施主：板橋区
設計・監理：楠山設計、設計事務所ゴンドラ
施工：建築＝共立・山生JV、衛生＝桶川・榎本JV、空調＝大三島・城北設備JV、電気＝渡部・光栄JV
竣工年月：2020年9月(全体竣工は2022年1月)



2F東側
児童用トイレ

「水場の交流点」と言うにふさわしいコミュニケーションスペースと、プライバシーを守る落ち着きの空間を両立している。